北鹿の学び舎から 2022－2023

輝くものづくり女子集合

秋田職能短大　鷹巣技術専門校　⑤

卒業生座談会ダイジェスト編①

秋田職業能力開発短期大学校や鷹巣技術専門校を卒業後、社会へ羽ばたき活躍する〝ものづくり女子〟5人にお集まりいただきました。女性ならではの視点で奮闘する姿や職場環境についてなど、ざっくばらんに交わされた座談会の様子を全3回（12月15、22日、元旦号）にわたってお送りします。今回はダイジェスト編です。

前段左から田中さん、平塚さん、長崎さん、仲澤さん、安保さん。後段左から根井副主幹、山本副主幹、伊藤就職支援アドバイザー（会場：秋田職能短大）

―女性だからこそ生きる強みって？

安保　私はワイヤー放電加工機のオペレーターをしています。プレス機械で圧力をかけて金属板を切ったり曲げたりするための金型の部品を製作しているのですが、これがすごく繊細な作業でミクロン単位の調整が必要です。男性だと力任せにやってしまうので製品をダメにしてしまうことがあるんです。女性の方が普段からメークをする感覚で目で見て確認して微調整しているので得意なんですよね。周りからは金属が重いから力作業と思われがちですが、その逆で細かい作業が多いです。

長崎　工事現場で測量をするときに、年配の男性の方って測量機器をまっすぐに立ててくれないことが多いので正確な数値がなかなか測れないんです。「斜めになってるからもう少し頭を右にずらして」と言うと自分の頭を右にずらしたり。「違う違う、今持ってるやつ」なんてやりとりをすれば分かってくれます（笑）。

女子力発揮で関係性◎ 声上げて職場環境を改善

平塚　私のところは女性だからこそ感じる強みというのはあまりなく、性別に関係なく何でもやるって感じですね。プリンターのような2人がかりで持つ物なんかも男性だから持つということではなくて女性だから持たないっていうこともなく。

―男性の多い職場で苦労することは？

長崎　一番大変なのはトイレですね（即答）。現場では男性用は用意してくれていても女性用はまだ全然。あったとしても男女兼用と言われてしまいます。あんまり気持ち的にはよくないですよね。仕方ないかなとは思いつつも少しモヤモヤしています…。

仲澤　20年も前の話ですが、民家を改装して作った工房だったので作業しているすぐ横にトイレがある状態でした。女性の職人が増えたことで、女性目線の意見を取り入れてもらい、環境も徐々に変わりつつあります。上の人の理解が一番大事ですが、社員たちも声を上げないと変えてもらえません。私は今後のためと思って結構きつく言ってきました。

―コミュニケーション能力の高さも女子ならではですね。

田中　現場監督となると専門業者の方と仕事をして、多いときだと5社くらいで進めます。現場では年の離れた職人さんに指示出しをするのですが、現場で困ったことがあればここぞとばかりに女子力をフル活用しています（笑）。「お願いしたい所があって…」と優しい感じで言うと、向こうも冗談交じりで返してくれたりと和やかな雰囲気になりますね。男性ばかりで怖いイメージがあるのかと思いますが、ものづくりの上では男女関係なく良い仕事をしたいという思いは同じなので、話を聞いてくれる人が結構います。

（―12月22日号ダイジェスト編②に続く―）

参加者

- 仲澤　恵梨さん　曲げわっぱ工房E08・伝統工芸士（秋田職能短大H14年度修了）
- 田中　有紗さん　大館桂工業㈱・現場管理（同H25年度修了）
- 平塚むつきさん　東光コンピュータ・サービス㈱・営業兼技術者（同H26年度修了）
- 安保　瑞穂さん　東光鉄工㈱・機械加工（同H30年度修了）
- 長崎　智美さん　㈱芳賀工務店・現場管理補助（鷹巣技術専門校H26修了）

コーディネーター
大館市教育委員会教育研究所
山本多鶴子副主幹（前教育監）

オブザーバー
秋田県産業労働部雇用労働政策課
根井由美子副主幹
秋田職能短大
伊藤　孝子就職支援アドバイザー